



つしよい!

いちのせき
協働ニュース

2017年2月

vol.11

自治会長等研修で秋田県五城目町を視察 (清流の会のみなさんと)



藤沢町住民自治協議会

会長：千田 博 ホームページ <https://www.dontokoi-f.com/>

愛称：どんとこい藤沢

お問い合わせ先：電話 0191-63-5515

Mail: fuji@dontokoi-f.com

中学生による次世代プロジェクト活動中

藤沢町住民自治協議会では、平成28年度事業として「次世代プロジェクト事業」を実施しています。この事業は、藤沢の地域づくりに中学生のアイデアを取り入れ事業を実施しようと6月から進めているもので、藤沢中学校の生徒から多くのユニークなアイデアが出され、7月の「指定管理記念講演会」で発表し、会場からは大きな拍手をいただきました。

現在は、このアイデアの中から「地元食材を使ったパン」を選定し、町内のパン屋さんの協力で製作を進めています。製作したパンは、2月5日開催の「地域づくりフォーラム」（於：藤沢文化センター）で皆さんにお披露目し、200個限定で販売します。

子どもたちによる地域の情報発信事業

藤沢市民センターの平成28年度事業として「子どもたちによる地域の情報発信事業」を取り入れ、大籠キリシタン史跡の情報を発信する事業を行いました。

6月は「英語で看板づくり」を地元の中学生や高校生により、市内のALT（外国語指導助手）の方々の協力を得て、キリシタン史跡の看板の英訳作業を行い、10月に14基の看板を設置しました。

また10月10日に「ハロウィンかぼちゃランタン作り」を行ったほか、12月4日には「クリスマスパーティー」を開催し、川崎町の内田正好氏による大籠キリシタンの歴史を取り上げた紙芝居や郷土文化保存伝習館にクリスマスイルミネーションを飾り、お昼には地元のお母さんらによる手作り「かぼちゃはっとう」が振る舞われました。

大籠地域の皆さんは、「隣接する地域や市内の皆さんにもっと参加してもらえたい」と来年度以降の事業展開にも意欲的です。

職員紹介

平成28年4月1日から一関市の市民センターで第1号となる藤沢市民センターの指定管理がスタートし、施設の管理運営や各種事業を実施、また藤沢地域の地域づくりを支援する職員を採用し、活動しています。



星 義弘（事務局長）さんから一言

今年度新体制でスタートしました。職員として微力ですが地域活動のお手伝いをできればと思っております。

菅原 照夫（事務局長補佐）さんから一言

地元藤沢地域のみなさんに親しまれお役に立てるように地域づくりに頑張っていきたいと思っております。

千葉 美香（事務局員）さんから一言

地域のみなさんと協力しながら活動していきたいと思っております。

星 美智子（生涯学習推進員）さんから一言

地域のみなさんと一緒に活動していきたいと思っております。

及川 秀子（地域振興課・市民センター支援）さんから一言

気軽に立ち寄れる市民センターになるよう、サポートしたいと思っております。



パン屋さんで相談する藤中生



看板の英訳作業の様子

各地域の協働の取り組み

輪

っしょい!

川崎まちづくり協議会

議長：伊藤 力

問い合わせ先

電話：0191-43-3112

川崎市民センター



川崎まちづくり協議会の概要

設立から6年目を迎える川崎まちづくり協議会は、定期的に議会（役員会）や全体会を開催し、地域課題解決に向けた話し合いを行っています。

命名「水色ウサキ」

川崎まちづくり協議会からの効果的な情報発信を目的に平成27年から実施している「桃色ウサヒ真似プロジェクト」。水色のぬいぐるみを活用し川崎地域の情報発信を行っています。

水色のぬいぐるみの名前は、平成28年度総会において、山形県朝日町の非公認キャラクター「桃色ウサヒ」として活躍している佐藤恒平さんから提案いただいた「水色ウサキ」に正式に決定しました。無個性ながらもどことなく愛嬌のある「水色ウサキ」がFacebookから川崎の「今」をお伝えします。



自治会カルテ作成の支援

現在、川崎地域の自治会では、「自治会カルテ」の作成に取り組んでいますが、そのカルテ作成の話し合い促進の助け舟として、協議会から「ファシリテーター」（協働促進者）の会員を派遣しています。

自治会カルテは、自治会と協議会と市の3者が情報を共有し、地域力の「健康状態」をチェックし、課題解決を図る基礎資料となります。協議会では、各自治会が作成した自治会カルテを踏まえ、地域の課題解決や自治会の将来展望について、まちづくりビジョンの事業計画の見直しに活用して行こうと考えています。

まちづくりポストの活用

住民の声を集める仕組みづくりの一環として「まちづくりポスト」を設置しています。これまでは、テーマを決めずにフリーとしてきましたが、平成28年度は「あなたの好きな川崎町内の場所・景色」についてのアンケートを実施しています。

また、まちづくりポストに寄せられた意見では堤防沿いの「ペットのフンに対する苦情」がありましたが、飼い主のマナー向上を目的に市と協力して啓発チラシを作成し、狂犬病予防注射の際にチラシの配布を行いました。また、春には河川敷への啓発看板の設置を予定しています。

寄せられた意見と検討結果については、引き続き情報紙「かわちゃんアンテナ」で地域の皆さんにお知らせしていきます。

これからも川崎まちづくり協議会では、まちづくりポストを活用しながら、自分たちが取り組める範囲で、地域課題解決や情報発信に取り組んでいきます。

各地域の協働の取り組み

輪

っしょい!

猿沢地区振興会

会長：佐山 昭助

問い合わせ先

電話：0191-76-2220

猿沢市民センター



実施計画の案を話し合う猿沢地区振興会のまちづくり委員会

団体の特徴、地域協働体の設立

「猿沢地区振興会」の歴史は古く、昭和46年から猿沢地区の諸問題解決のための団体として活動してきました。平成27年2月からは地域協働体として、猿沢地区民の生活がより一層充実するように、先輩方の思いを引き継ぎながら、住みよいまちづくりに取り組んでいます。

活動状況の紹介

まちづくり計画書の策定にあたり、振興会の「役割」や「まちづくり計画」の必要性などを地区民と共通理解を図るため、全9回の地域巡回懇談会を開催。その後、中学生以上を対象としたアンケートの実施と回答の集計、まちづくり計画策定委員会を設立し、ワークショップを実施しました。多くの地区民の協力をいただき、平成28年7月に地区の課題と解決策などが盛り込まれた「猿沢まちづくり計画書」が完成しました。

今後の活動や展開

現在、新たに委嘱したまちづくり委員の皆さんによって、まちづくり計画書を基に実施計画の検討が行われており、さまざまな視点から猿沢の特色を活かした新たな魅力ある実施計画づくりが進められています。委員会でまとめられた実施計画案は理事会に諮られ、承認後実施する運びとなっています。

実施計画は今後も随時見直しが行われ、地区の皆さんがわくわくするような事業展開を目指しています。

事務局の千田久美子さんから一言

猿沢地区の方はとても魅力的です。アイデア豊富でボランティア精神が旺盛で、何より「技」を持っている方がたくさんいます。そんな猿沢の方々「笑顔」に支えられながら、公民館指導員を経て地区と関わり10年の節目を迎えます。

「まちづくり」は難しいです。答えが無いに等しいですから。それぞれの地区にはそれぞれ背景や経緯があって、そこに住む人々の思いや考え方、満足度も違います。それでも、まちづくりは常に人と人との関わり合いの中から生まれてくるものと思います。結果も重要ですが、それまでの過程を大事にしながら、地区が持っている魅力を最大限に活かせるような、そんな笑顔あふれるまちづくりを目指し、猿沢の皆さんと一緒に奮闘していきたいと思っています。



千田久美子さん



いちのせき市民活動センター

NPO・行政・企業・地域の情報発信により
アイデアと出会いの機会を創ります

地域づくり計画策定後の組織運営

地域づくり計画の策定も進み、地域の想いを実現させるための事業も始まっています。今回は、地域づくり計画策定後の組織運営について考えていきます。

① 地域協働体の在り方

地域づくり計画を策定すると、計画に搭載した事業の運営に気持ちが向きやすくなりますが、あまり事業ばかりやりすぎてしまうと息切れを起こす可能性が高くなり、地域協働体が持続できなくなります。地域協働の目的は、「継続的な話し合いにより、運営しやすい地域にしていくこと」で、地域の人を巻き込む工夫をいかに凝らすかが重要なポイントです。地域協働体は、小さな単位（自治会等）を補完していく役割を担い、課題解決の優先順位、事業の必要性を常に意識し、開発や見直しを含めたコーディネートが大きな役割です。そのためには、地域のあらゆる状況や情報を把握しておくことも必要です。ある地域で、その地域外の方が事業をはじめたことを、「あれは、よその人がやっていることだから」と自分ごととしないことがありました。住民でなくても、地域において何かしらの効果を発揮することをしているのですから、ヨソモノを受入れる資質も当然ながら必要です。人口減が叫ばれる中、地域を良くしていくためには、人的資源はとても重要です。

ちいき 地域 そだて ひと 人 そだて
地域づくりをサポートしています
<http://www.center-i.org/>

いちのせき市民活動センター

一関市大町4-29 なのはなプラザ4階
TEL 0191-26-6400 FAX 0191-26-6415

いちのせき市民活動センターせんまやサテライト

一関市千厩町千厩字町149
TEL 0191-48-3735 FAX 0191-48-3736

② 一部の人の集まりになるな！多様な参加を促す地域協働体

地域づくり計画には、目指すべき将来像の下に分野ごとの事業計画が示されています。地域協働体によっては、専門部会を設けている場合もありますが、分野ごとのことだから、その分野の専門の団体や人たちに担ってもらえばいいという発想では、今までと何ら変わりはありません。地域づくり計画の案件を元のメンバーに戻してしまうことになり、戻された人たちは、「やること増えた」"考えるとと言われてもいつもと同じメンバーではアイデアも出てこない"結局は、元の状態と変わらず...という状況です。

専門部会は、事業実施の目的達成後のイメージを持ち、そのイメージを地域協働体で共有して、地域にいる人に協力を呼びかけ、部会が中心となったワーキンググループ（実行委員会形式）で取り組んでいきます。このことで今まで参加しなかったけれど関心のある人や必要な知識や経験を持った人の参加を促進する効果が期待できます。（※各種団体が実施すべき事業もありますので、すべてがワーキンググループというわけではありませんので注意してください。）

人口減が叫ばれ、住民ニーズの多様化が著しくなった昨今、多様な参加を求め、促し、みんなで興味関心を持って取り組むことで、担い手の育成を行い、持続可能な地域社会の構築を考えていくことが地域協働体には求められています。

これからどうなる？ 我がまちのこと

一関市地域協働推進計画

第3回

登場人物



一関 ヒロシ
この地区の
自治会青年部長



自治会長



アキラ
となりの地区の
自治会青年部

一関市地域協働推進計画

平成26年3月に策定したこの計画では、基本的な方針を次のとおりとしています。

自立型の地域づくり

「自分たちの地域は自分たちで守り、創る」を基本に、市民一人ひとりが当事者となり、地域のことを考え、その発想を自ら実践する自主・自立の地域づくりを促進していくこととします。

補完性の原則

これまで公共サービスは専ら行政が行うものとして、その範囲を拡大してきましたが、多様化する住民ニーズに対して、市民、地域、行政等が連携し、お互いが支えあい、補完しながら解決するという「補完性の原則」の考え方をもち、進めていくこととします。

地域分権の推進

地域が取り組んだ方が効果的、効率的なもの、身近なところで自ら判断し実施した方が良いものなどについて、「地域のことはそこに住む市民が決められる社会」の構築を目指し、事業と財源を地域に委ねる「地域分権」を進めていくこととします。

地域協働体

構成員

●一定の区域において、自治会や地域の各種団体、NPO、企業などから幅広い参画を得ます。
※各種団体の上部組織ではなく、構成員による「円卓会議」のような組織です。

取組

- みんなが話し合う場をつくり、「こんなまちにしたい」というような地域の目標を決めます。
- 地域の課題を整理して、安全・安心、福祉、環境、文化、子育てなど必要な取組みを企画し、地域の中で、または行政との役割分担により、地域づくり活動を展開していきます。
- 地域コミュニティを代表して、行政と意見交換等を行います。

期待される効果

●地域協働体で自分たちの地域課題の解決を図ることや行政と協働することなどにより、地域特性に応じた地域づくりが進められます。

地域協働体の位置づけ

地域では

●「地域コミュニティの代表組織」
地域住民や各種団体等と情報共有、連携、調整を行い、地域の特性を活かした地域づくりや公共的課題の解決に取り組むなど。

行政に対しては

●「地域と行政の協働のメインパートナー」
地域課題に関する市民の意見を行政に反映できる機能を有し、当該地域における行政事業に関し、地域を代表して意見するなど。

No.4 不審は予想通り

自治会長の家
高橋さん：
長期入院が
決まったそうだ

高橋さんのかわりに
私が敬老会の事務局を
引き受けたんだが
思ってたより
複雑だね…
自治会長って
人がいいなあ…

敬老会の場合は
社協の委託料などの
公的なお金が
使われてて
精算とか
大変ですよ
ぎゅっ

一関君は
パソコンとか
得意だよな
会社でも事務だし
えええー
敬老会の
事務局を
引き受けて
ほしい!!
ぼくも
断れない
性格なんだー

会社も残業が
ふえてきたのに
どっしよう…
敬老会
会社の
残業

おっ?
一関君じゃないか
久しぶりだな
!?



予想していたとおり、さらに役割が増えてしまったヒロシさんです。謎の人物が登場して先が気になる所ですね。「自立型の地域づくり」のところに目撃して、続きをご覧ください。

No.5 前任のヒロ-?!

なんか元氣
なさそうだな
アキラさん…
アキラさんはとなりの地区に
引こす前はこの自治会の
青年部長だったのだ
夏祭りの次は
秋祭りもあるしな
忙しくなる頃だな

敬老会の
事務局も青年部で
手伝うの?
同じ地区だから
協力しますが
今だつて厳しいのに
今後はもつとも

青年部の会議にも
全員集まら
ないし…
こんなんじゃ
秋祭りすら

同じ地区
だからってか?
地域協働体って
知ってるか?
次の会議に来て
みないか?

?
そして数日後
地域
協働体の集まり
市民センター

えっ
ガッ
ガッ

こんばんわー
となりの地区の
自治会青年部です
この地域協働体の
メンバーのみんなだ!
わたしたちは
PTA
わたしたちは
婦人会よ
「同じ市民センター内のエリアで
活動する各種団体のみなさん」



アキラさんに再会したことによって、驚きの展開となったヒロシさん。これはいったいどういうことなのでしょう。アキラさんが設定してくれた、「話し合いの場」が何を意味するのか、ヒントとなりそうなのは、「地域協働体」です。

〈つづく〉